



電気設備状態10秒で判定

日本メカトロニクス 低価格ポータブル機器

日本メカトロニクス（大阪府淀川区、小幡忠信社長）は、電気設備の状態で、同社従来機に比べて3割価格を抑えた。電気設備を停止させずに測定できる特徴「2000Ⅱ写真」を7月に発売する。消費電力、化学、交通インフ

ラなどの保全部門に提案する。年間10台の販売を目指す。

分電盤のケーブル部分に高調波センサーを近付けて非接触で測定し、修理の必要性も含めて5段階で判定する。設備内の部位別に異常・劣化度合いを数値化し、その傾向を把握して予知保全につながる。従来機が1万件

の設備稼働データに基づいて解析していたのに対し、新製品は3万2700件に増やして診断精度を高めた。

診断対象設備は交流・直流電動機、電力用変圧器、電力用コンデンサーなどで原動機のダイーゼルエンジンやタービンにも対応する。高調波センサーに分電盤のケーブル部分を囲うクランプタイプを追加し、分電盤同士が隣接しても他機からの高調波による影響を受けにくくした。